

令和2年度 第1回「検討の場」 議事概要

日時：2020年6月3日（水） 13:15～14:15

場所：鹿児島森林管理署会議室

出席者：

【環境省】松永課長・伊藤自然保護官（九州地方環境事務所国立公園課）、柘植国立公園保護管理企画官・下野国立公園利用企画官・木滑国立公園管理官・平木生態系保全等専門員（屋久島自然保護官事務所）

【林野庁】河邊計画課長・江藤自然遺産保全調整官（九州森林管理局計画保全部計画課）、峰内保全課長・橋口野生鳥獣管理指導官（同計画保全部保全課）、西署長（屋久島森林管理署）、林所長（屋久島森林生態系保全センター）

【鹿児島県】内村技術主査（環境林務部自然保護課）

【受託者】塩谷参事・稲留主査（鹿児島県環境技術協会）

配布資料：

- ・令和2年度第1回「検討の場」（表紙、出席者名簿）
- ・令和元年度第2回合同会議における主な助言に対する今後の取組方向（案）
- ・令和2年度林野庁九州森林管理局による調査事業の概要
- ・森林生態系の管理目標に関する現状把握・評価について（資料）
- ・令和元年度及び令和2年度の取組について（案）（資料1）
- ・西部地域の目指すべき森林生態系とヤクシカ対策に関する意見交換会実施結果
(資料1—別紙1)
- ・新規植生保護柵の設置（令和元年度）について（資料1—別紙2）
- ・シャープシューティングの体制による計画捕獲の実施について（案）（資料1—別紙3）
- ・屋久島西部地域におけるヤクシカ管理実施計画（修正案）について（資料1—別紙4）
- ・自動撮影カメラによる西部地域のヤクシカモニタリングについて（資料1—別紙4別添え）

議題

1. 令和元年度第2回合同会議における主な助言に対する今後の取組方向（案）の確認について
2. 令和2年度九州森林管理局委託事業の概要について
3. 屋久島西部地域におけるヤクシカ管理実施計画について
4. その他

○議事概要

■令和元年度第2回合同会議における主な助言に対する今後の取組方向（案）の確認について

主な助言と今後の取組方向について、九州森林管理局保全課から最終確認として、1 ページ目の上から2 段目の「議事－1－(1)」捕獲効率の低下関係の助言関係の回答欄について、赤下線部分の追記と1 ページ目の最下欄の「議事－1－(2)」シカ柵設置については、「国有林においては必ず実施しているので、そのままの表記としたい」と説明。

<意見・質問等>

- ・ 特になし。

■令和2 年度林野庁九州森林管理局による調査事業の概要について

令和2 年度林野庁九州森林管理局による調査事業の概要及び森林生態系の管理目標に関する現状把握・評価について、資料に基づき九州森林管理局保全課から、昨年度と同様に5 つの項目について調査実施の説明及び事業実施にあたり関係機関の協力を依頼。

<意見・質問等>

- ・ 移動状況等調査の花之江河のシカには、いつくらいに首輪を付ける予定か。
⇒ コロナ禍の影響もあり、確定ではないが8 月頃を予定している。

■新規植生保護柵の設置（令和元年度）について

資料1－別紙2 に基づき屋久島自然保護官事務所から、「西部地域の半山地区に植生保護柵を4 箇所設置した」との説明。

<意見・質問等>

- ・ 特になし。

■シャープシューティングの体制による計画捕獲の実施について（案）

資料1－別紙3 に基づき屋久島自然保護官事務所から、「今年度から計画捕獲として実施する。実施場所は黒味林道を検討しており、実施時期は1 0 月頃給餌を開始、1 1 月頃捕獲を実施する予定」と説明。

<意見・質問等>

- ・ 特になし。

■屋久島西部地域におけるヤクシカ管理実施計画（修正案）について

資料1－別紙4 に基づき屋久島自然保護官事務所から、「前回案と比較して内容は大きく変わらないが、WG で指摘のあった管理目標を記載した。屋久島全島を対象として設定された森林生態系の管理目標の4 項目の準用が妥当か、次回のヤクシカ WG で助言を得る予定」と説明。

また、現在の生息密度の約50 頭/km²を踏まえ、「今年度は目標頭数を20 頭、5 年後の生息密度を1 6 ～2 0 頭/km²を目標としている」旨を説明。

<意見・質問等>

- ・ 初年度 20 頭捕獲した後、捕獲効率の低下を考慮して、少しずつ捕獲数を減らしていけば目標を達成するということだが、管理区域の面積を設定しているとの理解でよいか。
⇒ どこを管理区域と設定するか厳密には設定していない。瀬切の捕獲箇所から 1km 程度必要だろうということ考えている。
- ・ 前回の科学委員会、ヤクシカ WG でも捕獲すれば、周辺から流入してくると言われていたが、仮定として周辺から移動してこないと設定しているが、意見はないだろうか。
⇒ 基本的に地形、障壁によって変わってくると思われる。その外側の捕獲によってかなり影響が出てくると思われる。
- ・ 増加率が、5 年間一定値 1.16 は設定としておかしくないが、どこからのデータか。また、移入等してくると、それが区別できないので、実行しながらデータを分析して何が起きているか検証していくしかないだろう。移入に関しては、見えないところがある。
⇒ 増加率 1.16 は、環境省の全国のデータから持ってきている。また、自動撮影カメラによるモニタリングから、移出入等が把握できないか検討する。

■自動撮影カメラによる西部地域のヤクシカモニタリングについて

資料 1—別紙 4 別添えに基づき屋久島自然保護官事務所から、「西部地域全体に状況把握のためカメラを設置し、撮影分布図を作成・分析したが、今回冬季の 3 ヶ月のデータであり、生息分布の季節変動は把握できていない。」旨を説明。

<意見・質問等>

- ・ これだけのカメラがあって、今一番遅れているのはカメラからの頭数推計である。それと、もう一つ糞粒調査があるが、何かそのあたりと整合ができないか。データの検討をしたらどうか。
⇒ 糞粒・糞塊調査も実施しているので、何かできないか検討する。
- ・ 幼獣、亜成獣、成獣とあるが月齢幅はどれくらいを見ているのか。
⇒ ビデオを見て、目視で判断している。

■その他

○ モニタリングカメラの設定方法等について

- ・ 高層湿原等に林野庁でカメラを設置しているが、データ積み上げのため撮影時の設定方法等について同じようにできないか。
⇒ 可能だが、今後調整しながら実施していきたい。

○ 鹿児島県の指定管理鳥獣捕獲等事業について

- ・ 今年度も実施することとしているが、場所について屋久島森林管理署と相談したいので、協力をお願いしたい。

⇒ 了解。

以上